

令和6年度 府立洛西高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（最終段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
1 確かな学力を身に付けさせるとともに希望進路の実現を図る。	1 新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、学校の教育活動は多くのことが以前と同じように実施できるようになった。新学習指導要領及び一人一台端末も2年目を迎え、昨年度の状況を踏まえ、ICTの活用による授業改善や教育活動の活性化をさらに進めていくことができた。 卒業生の進路状況については、国公立大学への進学者が前年度よりも大幅に増加し、希望進路の実現について大きな成果を収めることができた。学校の授業を中心に、最後まであきらめず粘り強く取り組むよう指導を進めてきた成果が表れた。 令和6年度は特に総合的な探究の時間の充実や洛再 Links の一層の拡充を図り、生徒の自ら学び探究する姿勢を醸成し、将来の進路実現につなげていける取組としていきたい。また引き続き土曜活用や3年間を見通した系統的な進路・学習指導を行っていく。	1 一人ひとりの生徒を大切に、個性と能力、可能性を最大限に伸ばす教育活動を推進し、生徒の果敢な挑戦を支援することで、希望進路を実現させる。国公立大学への合格者数は学年生徒数の1割以上を目指す。また、総合的な探究の時間の充実や洛再 Links の一層の拡充を図り、生徒の自ら学び探究する姿勢を醸成し、将来の進路実現につなげる。 (1) ICT 活用を一層推進し、一人一台端末による教育活動をさらに充実させる。また学習指導に当たっては、基礎基本の確実な習得、生徒が主体となって学ぶ授業への創意工夫、教員相互の授業交流を充実させる。 (2) 生徒の果敢な挑戦を支援し、希望進路の実現に向けての体制を強化する。高校3年生2月以降の指導を充実させノウハウの継承を目指す。 (3) 総合的な探究の時間の充実や洛再 Links の一層の拡充を実践し、地域や社会とつながり、自ら課題を発見し他者と協働しながら活動する力を身につけさせ、自らの在り方生き方を考えさせる活動の充実を図る。新たな組織を立ち上げ、より多くの教職員・生徒が関わる体制を構築する。 (4) 学習・部活動・学校行事等にも全力で取り組む学校文化をさらに醸成し、そのような活動をとおして豊かな人間性を育むとともに、主体的に行動する力を高める。 (5) 生徒指導が学校教育の土台であることを念頭に、温かさの中に厳しさのある生徒指導を推進する。基本的な生活習慣を身につけ、心身ともに健康な生徒の育成を目指す。 (6) 各分掌、教科の連携のもと、特別な支援が必要な生徒には合理的配慮をとおして、社会的自立に向けて個に応じた支援を進める。
2 部活動・自主活動の充実・活性化により、豊かな人間性を育み質の高い集団づくりを行う。	2 部活動、洛西フェスティバル等の学校行事は、ほぼコロナ禍前の取組に戻し、充実を図ることができた。特に2年目を迎えたイオンモール桂川で実施したオープン文化祭は、多くの府民、中学生、保護者に本校の活動を知っていただくよい機会となった。今後も総合的な探究の時間、洛再 Links、学校行事、部活動等を一層活性化させ、生徒に在り方生き方をしっかり考えさせ、豊かな人間性を育む取組を充実させていく。	2 本校の魅力を発信し、府民、地域、保護者、中学生等からの信頼をさらに高める取組を推進し、本校を志願する中学生の一層の増加を目指す。ホームページやInstagramでの発信を強化するとともに、新聞やテレビなどの媒体にも本校の活動を取り上げてもらえるよう、広報活動、発信力の一層の強化に努める。また、中学校訪問の機会を増やし、タイムリーな情報を提供する。
3 保護者、地域の方々から信頼され、期待される、魅力ある開かれた学校づくりを実現する。	3 今年度の入学者選抜では、前年より志願者が減少した。様々な要因が考えられるが、今後も地域・保護者・中学生等からの信頼をさらに高め、本校の教育活動を広く知ってもらえる取組をより充実させる必要がある。ホームページやInstagramでの発信を強化するとともに、新聞やテレビなどの媒体に本校の活動を取り上げてもらえるよう、広報活動、発信力の一層の強化に努める。	

成果と課題

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
組織運営	- 各種会議の連携を図り、学校運営を組織的に進める。 - 生徒・保護者・地域社会からの期待に応え、信頼される学校作りを一層推進し、本校の教育活動についての特色や魅力に関する情報発信を積極的に行う。 - 生徒の教育環境の充実に向け、適切な予算執行を行う。	部長会議を中心とし、各種会議にて課題に応じた組織的な検討を行う。	B	B	B	- 部長会議及び各種会議において、分掌部長からの提起により、課題の共有と検討が有効に機能している。中間段階において、生徒の問題行動に関する情報共有に課題が見られたので、その周知に努めた。また、来年度入学生の研修旅行の検討について、回を重ねて継続しており、これまでの実績を踏まえた継続的改善を図ろうとしている。 - 学校広報としては、メディアを活用したPRを適宜行うことができた。また前期選抜の出願状況では3年前の水準まで回復しており、他校の状況を踏まえると想定通りの成果があったと考える。 - 特に洛再Links等の活動については、1年生の総合的な探究の時間への展開を図ることができた。また、Links活動が飛躍的に発展しており、内外から評価を得ている。今後の継続性の点で検討を重ねていきたい。 - 進学実績について、洛西高校のこれまでの実績をふまえて、教務部、進路指導部及び学年部を中心として継承をするかたちがとれている。
		各種会議での検討内容を全教職員で共有し、共通理解のもと組織的な取り組みを進める。	B			
		学校内外で実施する本校の説明会や広報誌、ホームページなどの内容を充実させ、その他のメディアも活用しながら、本校の教育内容や特色、魅力等を積極的かつ効果的に広報する。また、Classiを活用し、日々の高校生活等について生徒や保護者へ適切な情報提供に努める。	A	A		
		洛再Links等の活動を組織的なものとし、地域とのつながりを大切にすることに努める。	A			
		危険箇所の早期発見・改修を行い、安心安全な学習環境を整えるとともに、施設設備の充実を図る。	B	B		
		生徒の個性と能力、可能性を最大限に伸ばす教育活動を実現するため、適切な予算執行を行うとともに、奨学金等の情報提供を行い就学支援等の充実を図る。	B			

各分掌

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
教務部	新学習指導要領の趣旨を踏まえ、確かな学力を身につけさせる授業を実践する。	「指導と評価の一体化」の趣旨を踏まえ、授業改善に取り組む。	B	B	B	- 学習スタイルの確立に向けて、特に1年生については、入学時に学習の取り組み方についての初期指導を丁寧に行った。新学習指導要領に基づく授業や一人一台タブレット端末導入が始まって3年目となるが、それに伴い授業実践において試行錯誤を繰り返し、授業改善を図っている。今後さらに、生徒の主体的に学ぶ姿勢を育成し、学力伸長につなげたい。観点別学習状況評価についてもこの3年を振り返り、各教科で評価方法の検証をした後、引き続きよりよい方法を模索する必要がある。 - 情報発信については校内外での学校説明会や個別相談会で、本校のコース選択やカリキュラムの特色を伝えることができたが、関係分掌とも連携し、生徒がより一層やりがいを持って学習に取り組める環境作りに向けた具体的な方策を考える必要がある。 - 学校運営において、教務部により安定的な運営ができています。
		自学自習の学習スタイルの確立と基礎基本の定着を大切にした学習指導を行う。	B			
		探究活動を軸に、生徒自身が主体的に学ぼうとする姿勢を育てる。	B			
	中学生、保護者、地域から期待されるよう、学校の魅力を発信する。	学校生活を魅力あるものにすべく、生徒がやりがいや達成感をもてる行事計画を策定する。	B	B		
		他分掌との連携を図り、本校の魅力をHPや説明会を通して積極的に伝える。	B			
		生徒自身が本校生徒であることに誇りと自信を持てる教育活動を行う。	B			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上に努め、安全意識（交通安全・防犯・防災）の高揚を図る。	- 日常における挨拶や正しい言葉づかい、時間の自己管理を指導する。 - ルールを理解し服装や頭髪、化粧等に対して正しい判断ができるよう指導する。 - 自転車通学者を中心に、登下校時の安全指導を充実させるとともに、「4ない運動+1」を推進する。 - スマホ・タブレット端末の使用のマナー、SNSやネットとの関わり方など情報機器の正しい使い方を指導する。	B	B	B	- 遅刻指導を行っているが、昨年度より校門指導の対象者が増えている。同じ生徒が繰り返しているため、よりよい指導を検討していく。 - 身だしなみについては、学年と協力しながら指導を行っている。また、違反があった際にはクラス掲示等で注意喚起を行った。流行は常に変化していくので、その都度正しい身だしなみにあたるのか検討していく。 - 自転車通学者の事故件数は年々減少傾向にあるが、マナーの面でよりよい指導を行えるよう取組を改善していく。 - スマホ・タブレット端末の使用について指導を行っているが、より効果的な指導を実践していく必要がある。 - 洛西フェスティバルを中心に学校行事に主体的に取り組むことができる。部活動については、施設利用のあり方などを考えさせて公共心を養いたい。 - 生徒指導件数については増加しているが、発生後の対応とその後の未然防止の点で丁寧に指導することができた。
	落ち着いた学習環境を作り、個性と能力、可能性を最大限に伸ばす教育活動を行うとともに地域や社会とつながり、自己を高める。	- 人権学習の内容を充実させ、一人一人の意識を高め人権が守れる集団となるように指導する。 - 部活動や学校行事、特に洛西フェスティバルの取組を通して、主体性や協調性を向上させられるよう指導する。	B	B	B	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
進路指導	- 個に応じた指導等により、生徒一人一人の進路を実現する。 - 大学進学に関する具体的目標としては、国公立および難関私大への実合格者80人を目標としつつ、国公立大学、難関私大への合格者数、及び主に創造クラスからの難関中堅私大への合格数者を指標とする。	校内の各組織と連携しながら、生徒が自ら将来像を描き、よりよい進路選択をしていくように促す。	A	A	B	- 校内で連携しながら、進学講習、進路行事等を通じて生徒の進路実現に向けた取組を実施することができた。特に大学・社会人を活用した活動は内容の濃いものとなった。 - 特に国公立大学の学校推薦型選抜や総合型選抜へ向けた個別指導については、各教科の協力得て充実したものとなった。 - 今後も生徒の学力伸長に向けた取組を継続していく必要があると思われる。 - また、令和7年度入試についての情報が公表され次第、逐次その収集・整理が求められる。 4年生大学への進路指導において、今年度の状況を踏まえつつ、昨年度の継承ができている。
		探究クラス、創造クラスともに確かな学力を身につけて希望進路を実現するために、生徒への働きかけを講じるとともに、担任・教科担当への情報提供に努める。	B	B		
		生徒が主体的に学ぶ姿勢を身につけるために、高大連携等を活用しながら、様々な刺激を与える。	B			
		個人面談を通じて一人一人の進路実現への助力をする。	A			
		大学入試等の動向について、適切な情報収集と対応を図る。	B	B		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
第1学年	基本的な生活習慣を身に付け、礼儀やマナーに則った行動ができるように指導する。	他分掌とも協力し、朝の登校指導を積極的に行う。時間厳守、挨拶の励行、身だしなみを整える等を当然として捉え、自ら考えて行動する力を育てる。	B	B	B	「当たり前前」の学年目標のもと、気持ちの良い挨拶ができる生徒が多くなった。しかし、校門遅刻については、一定数の生徒がおり、改善したとはいえないが、日常的に声かけを行っていたこともあり、個に応じた指導を行うことはできた。また身だしなみ等の指導は数件あったが、一年間を通じて大きな崩れなく終えられたのは、日頃の指導の成果だと考える。 - 今年度からの取り組みとしてスタートしたGate Linksについても、大きな混乱もなく、全員が何らかの活動には参加し、非日常的な体験学習を行うことができた。全員が参加したことに大きな意義がある取組であり、この取り組みで終わらないよう継続した指導が必要であると感じている。 - SHRの時間を活用して「英単語コンテスト」と「朝読書」を実施した。来年度も学習関係のイベント等を企画し、学習意欲向上につなげていきたい。
	部活動や自主活動に参加し、生徒が意欲的・主体的に取り組む姿勢を育てる。	部活動や学校行事、洛再Links活動への参加を促し、「今しかできない体験」を通して豊かな人間性を育む。	A	A		
	授業を中心に、予習・復習の学習サイクルを実施し、家庭学習習慣を確立させる。	Classiを有効活用し、学習状況の把握やフィードバック、模試の振り返り等を行い、学習意識を高める。	B	B		
	生徒一人一人を大切に、個に応じた指導を行う。	日頃から生徒とのコミュニケーションを大切に、信頼関係を構築する。また、家庭と連携を図りながら、生徒の個性や能力を伸ばす教育を充実させる。	A	A		

評価領域	重 点 目 標	具 体 的 方 策	評価			成果と課題
第2学年	• 具体的な進路実現を意識した取組の中で、授業を中心とした学習環境を整え、学力の向上を図る。	• 教科担当者と連携を図りつつ、確かな学力を育成するために授業に主体的に取り組ませる。	B	B	B	• 学習に関しては、概ね落ち着いた学習環境の中で授業に取り組んでいる生徒が多くみられるものの、2年生になって各生徒の意識のばらつきが顕著になり、全体的な雰囲気に影響が出ている感は否めない。それでも、総合的な探究の時間における活動やLHRの活動、模試への取組などを通じて、3学期には卒業年度を意識させるような指導を展開した。多くの生徒が受験結果にこだわることはもちろん、受験活動を通じて自己実現・進路実現をしていけるように次年度もサポートしていきたい。 • 人間的に成長させようと学年団で重点的に取り組んでいるが、課題を抱えた生徒が一定数おり、辛抱強い指導の必要を痛感している。 学校活動の充実においては、他分掌との連携を図りつつ、全ての生徒が達成感を持って卒業できるよう、引き続き検討していきたい。 • 生徒指導事案に対して、生徒指導部との連携のもと、学年団全体で対応し、継続指導ができています。
		• 定期考査に向けての計画・実践・反省を通して、日々の学習の重要性に気づかせる。	B			
		• I C T推進担当と密に連携し、一人一台端末を活用した効果的な学習を積極的に進めるよう促す。	B			
	• 自立した「大人」として、きちんとした基本的生活習慣を身につけ、礼儀や規律を自発的に守る態度を育てる。	• 生徒指導部とも連携し、時間厳守・挨拶励行が習慣づくように継続的に指導する。	A	A		
		• 自転車乗車や身だしなみに関するルールの意義を理解したうえで遵守できる生徒を育てる。	B			
	• 学校生活を意欲的に送るなかで、互いを尊重し、高め合える質の高い集団づくりを目指す。	• 部活動や学校行事に前向きに取り組み、学校リーダーとして中心となって行動するよう指導する。	B	B		
	• 生徒が何事にも積極的にチャレンジすることで学校生活において充実感を得られるよう、適切にサポートをする。	B				

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
第3学年	「想像力」「思いやり」「ほんの少しの勇氣」を1年次、2年次に続いて学年のキーワードとし、お互いに助け合い、認め合い、高め合える質の高い集団づくりを目指す。	学習、部活動、学校行事等、様々な場面において、互いに切磋琢磨しながら粘り強くやり切るように指導する。	B	B	B	- 最高学年、受験生としての自覚が芽生え、学習に本腰を入れて取り組む生徒が増えた。大半の生徒は学習と両立させながら部活動を最後までやり切った。 - 進路指導部と連携しながら個人面談、個別指導の機会を大切にして希望進路実現の後押しをすることができた。国公立大学の推薦入試合格者を年内に10名出すことができたのは大きな成果であった。 - 文化祭の日程が昨年度から1週間遅くなったことで進路関係の重要な行事との並行が困難な状況だったが、各クラスともけじめをつけながら準備活動に取り組み、質の高い演劇を披露することができた。 - 年間を通して朝の遅刻が多く、基本的な生活習慣が確立してない生徒が目立った。生徒指導部の早朝登校対象者も多く、指導を徹底できなかった。 - 身だしなみや化粧の指導に課題が残った。学校として足並みをそろえ、ルールを明確にして粘り強く指導していくことが必要である。
		学校生活のあらゆる場面で、他者への配慮や思いやりを持って行動するように指導し、あたたかい雰囲気の集団づくりを目指す。	B			
		部活動、文化祭、体育祭、洛再Links活動、委員会活動等に積極的に取り組ませることで生徒の自主性や豊かな人間性を育む。	A			
	「大人」への第一歩として、基本的な生活習慣を確立し、きちんとルールやマナーを守って行動する態度を育てる。 - 生徒の学力向上を図り、希望進路を実現させる。	生徒との日常的なコミュニケーションを大切にしながら、生徒指導部と連携し、身だしなみ、時間厳守、交通ルール遵守、あいさつの励行等、あらゆる場面で継続的に指導する。	B	B		
		日々の授業を中心に、学校に軸足を置いて学習に取り組み、それぞれの進路目標の実現を目指して最後まで努力する姿勢を大切にさせる。	B	B		
		- 個人面談や日々の声かけ等の機会を大切にしながら、生徒ひとりひとりに応じた進路目標が決定できるようにサポートする。 - 進路指導部との連携を密にし、Classi等を活用して生徒、保護者に適切な情報提供ができるよう努める。	A			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
保 健	生徒一人一人を大切にし、学校経営計画に基づく様々な教育活動を支援する。	保健管理や保健指導を計画的に実施する。	B	B	B	- 教育相談会議を通じ、校内で必要な情報を共有し、生徒指導に役立てることができた。引き続き生徒の状況把握に努める必要がある。 - 支援の必要な生徒には外部機関と連携を取ったり教科担当者会議や定期的に生徒情報を共有してもらったりして、教職員の中で情報共有し対応してきたが、個々に対する対応の仕方を引き続き考えていく必要がある。 - 各種検査を実施することができた。環境整備については今後も事務部と協力して進めていきたい。
		不登校等の未然防止や学校生活を送るうえで支援を必要とする生徒への早期対応を図る。学年部や関連分掌と連携し、兆候を早期に把握し、必要な手立てをとる。	A			
	特別支援教育を充実させる。	特別支援教育の充実に向けて関係機関、各分掌との連携を図る。	B	B		
	学習環境を整備し、充実させる。	安全点検や清掃用具等の点検整備を進める。	B	B		
	学校保健会議を活用する。	各種検査を活用し、教育活動に係る環境整備を進める。	A	B		
		学校医、学校歯科医、学校薬剤師との連携を大切にし、学校運営に活かす。	B			
	感染症防止への対策に努める。	手洗いや換気等、感染予防を徹底すると共に、事務部と連携し、消毒等の環境整備に努める。	B	B		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
図 書	学校経営計画に基づく教育計画や教育指導への支援を充実させる。	探究型学習、調べ学習、図書館利用学習への直接的支援や援助を行う。	B	B	B	- 図書館利用学習への直接的なサポートは充分に行えた。図書館利用者数や貸出冊数については回復傾向にある。BYOD環境（端末活用方法の提案とWi-Fi環境の整備等）を充実させるとともに、授業での図書館利用をより一層促進していきたい。 - 著作権への適切な対応と理解を深めるために、教職員に対して研修会を企画し、実施することができた。 - 学校行事や人権学習等の時期に合わせて特集展示を行い、啓発活動を行うことができたが、積極的な利活用は実現できなかった。授業も含め、ロイロノートやClassi、Teams等を使って校内に向けて情報提供をするなど改善していきたい。 - 団体鑑賞の生徒評価は7割以上が「満足」で好評だった。 - 文化祭の演劇の脚本や映像資料については、学校資料として整理・保存・活用が十分にできている。 - 図書委員会の活発な活動を支援できた。開設2年目となる図書館公式Instagramでは、図書館の様子や魅力等を発信し、外部（出版社や書店、公共図書館や他校図書館等）からの評価も得ている。 - 教科や部活動と連携し、図書館でのイベントを企画立案し実現できた。 『洛西選書』や広報紙の発行・装飾や展示等を通じて、生徒の読書活動の啓発に努めた。また、ホームページでも頻繁に図書館の活動を発信することができた。 - 府立図書館と連携し、電子書籍等サービスを今年度も導入することができた。
		学校行事や人権学習等の取り組みに積極的に協力し、特別展示などを通して啓発活動を行う。	A			
		教育的効果を考慮した団体鑑賞を実施する。	B			
		学校行事のビデオ撮影を行い、学級活動等に提供する。	A			
	自主的に読書に親しむ生徒を育て、読書を通じて豊かな人間性を育成する。	図書委員会の活動を活性化させ、自主的な取り組みを増やし、視覚的にも楽しい図書館にする。	A	A		
		図書館ニュース、新着図書案内、洛西選書等を発行する。特設コーナーや館内イベントを充実させ、読書の啓発に努める。	A			
		図書館管理システムによる蔵書管理を効果的に行う。	A			
	地域・保護者・中学生等に積極的に広報する。また、外部の公的機関等との連携を深める。	ホームページやSNS等を通じて広報、情報発信を行う。	A	A		
		公共図書館との連携を深める。				

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
総務企画	生徒募集に関して、志願者減の状況を踏まえ、本校の教育活動を、さまざまな機会を活用し、中学生及びその保護者、地域にわかりやすく伝える発信力を強化する。	- 学校内外で実施する本校の説明会や、広報紙、ホームページ等の内容を充実させ、本校の教育内容や特色、魅力等を効果的に発信する。 - Instagramを週に1度以上発信する。	B	B	B	- 中学校や校外の説明会に積極的に参加して広報した。内容も進学実績や洛再Links活動を柱としてアピール力を高めた。 - Instagramの発信が継続してできなかった。きちんと担当を決めて、回していく必要がある。 - ホームページの情報の更新を継続できた。これからは校内の様々な情報をHPに載せてくために各方面に協力を依頼していきたい。 - PTAとの連携をとり、副校長とともにバックアップに努めた。 - 広報誌の発行も順調に行えた。 - さまざまな形で「総合的な探究の時間」を充実させた。 「グローバルネットワーク京都」の取り組みを計画的に進めることができた。よりよい形で次年度へつなげていきたい。 「Gate Links」により、まずは1年生全員に体験をさせることができた。 - 洛再Links活動をさらに広げ、深めていく年度となった。
	在校生及びその保護者に適切に情報提供をする。	ホームページを活用し、必要な情報を的確に、早めに発信する。	B			
	PTAとの関係を深め、信頼される学校作りを目指す。	PTAとの連携を深め、PTA総会をはじめとする各種委員会の活動や諸行事、PTA広報誌「まほろば」の発行などが有意義なものとなるようにバックアップする。	A	A		
	府立高校特色化事業等の取組である総合的な探究の時間や、洛再Links活動等を通して、生徒の社会科学的視点、国際的な視点等を養う。	- 学年部や教科と連携して「総合的な探究の時間」や「グローバルネットワーク京都」の取組を計画的に推進し、年度末の発表に向けて準備を進める。 - 洛再Links活動を全校的な取組として位置づけ、積極的に推進し、活動を発信する。	A	A	A	
ICT推進	ICTを活用して日々の校務を効率的に行う。	ClassiやTeamsなどの授業支援システムの有効な活用を進める。	B	B	B	授業支援アプリとしてのロイロノートやPCを使った採点支援の採点ナビの活用は進んだ。ICTを活用した授業実践の共有は、ロイロノートの研修会にとどまったので、今後拡充していければと考える。学習、業務支援のClassiについては費用対効果を考えて、推進撤退の両面で今後も検討を継続する。ICT機器については随時メンテナンスを行ったが、設備の老朽化も見られ、更新を考える時期が来ている。
	ICTを活用して授業・学習活動を推進する。	学習指導を効果的に進めるために、新たな学習アプリの導入を検討する。	A	B		
		ICTを活用した効果的な実践について共有する。	B			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
事務	生徒の個性と能力、可能性を伸ばす教育活動を実現するため、適切な予算執行を行うとともに、奨学金等の情報提供を行い、修学支援等の充実を図る。	- 本校の教育活動に何か必要かを教職員と連携して検討し、有効で適切な予算の執行を行い、必要な物品等は速やかに購入する。 - 危険箇所の早期発見・改修を行い、安心安全な教育環境を整備するとともに、施設設備の充実を図る。 - 多種多様な奨学金制度について本校のホームページを活用し、情報提供を行うとともに、円滑な事務処理を行う。	B	B	B	- 修繕箇所が多く、光熱水費の高騰等もあり、予算状況が厳しい中、全ての要求に応えることは困難であるが、より必要性の高い可能なものから対応した。教科・分掌予算に関しては、ヒアリング等を行い、予算確保に努め計画的に執行できた。 - 危険箇所に関しては優先して改修を行った。体育館の長寿命化工事を教職員の協力のもと、無事完了した。ICT教室の壁面ホワイトボード化工事もし、一部材料を購入して作業を職員で行う等、施設の充実に努め魅力化を図った。 - 公的な修学支援制度については、配付・ホームページ、PTAお知らせメール、Classiで情報提供をし重点的にお知らせした。 - 外部からの最初の窓口となるため、第一印象を大事にし、職員とも連携を取って、親切でよりスムーズな対応に努力した。
	保護者、地域の方々から信頼されるように外部と接触する。	電話や窓口業務の対応で、保護者や地域の方々から信頼されるように言葉遣い等に留意する。	B	B		

学校関係者評価委員会からの意見	・ 洛再Links活動を中心として地域との連携活動が充実してきているので、引き続き発展させてほしい。 ・ 志願者を確保するために、地域連携を含め、「洛西高校で何が学べるか」を中学生・保護者へ発信することが重要である。 ・ 近年の進学実績は一定の成果があり、その要因の一つは学習環境の良さである。その点を十分にアピールすることを望む。 ・ 自転車事故防止に向けての継続的な取組を進めてほしい。 ・ 学年が進行するにつれて、生徒や保護者の学校生活に関する満足度が増えている様子がうかがえる。在校生が日々の高校生活に対して満足することが、本校の魅力を外部へ発信する一つとなることから、在校生の声をアピールに活かす工夫を求める。 ・ 洛再Links活動のように、生徒が主体的に取り組み、自ら地域・社会の課題を発見し解決の糸口を探ることが重要である。社会とつながる活動をさらに学校全体の教育活動に広げることにより、生徒の自主性が一層育まれることを期待する。
------------------------	--

令和7年度に向けた改善の方向性	・ 学習活動、学校行事、部活動及び洛再Links活動の四本柱を充実させることを基本とする。 ・ 本校を理解した上での志願者を増加させるために、ホームページに加えてインスタグラム等も活用して、四本柱の取組を中心に、学校生活の積極的な情報発信をさらに強化していく。 ・ ICTを活用した教育の展開を一層推進するとともに、情報モラルや情報リテラシー等についての指導を強化する。 ・ 生徒1人1人の進路実現のために、学習環境の改善に努める。 ・ 洛再Links活動は地域との連携を重視する本校の教育活動として重要なものである。また、令和4年度に設立した洛再Links同好会は、地域の方々からも引き続き好評を得ており、今後も全教職員の取り組みとしてこれらの活動をさらに充実させ、進路実現に活かすことができるようにする。 ・ 「総合的な探究の時間」について、今年度、総務企画部内にQ課を設立して体制を変更したが、全校体制のもと洛再Links活動のノウハウを生かし、生徒の進路実現につながるような取り組みとする。 ・ 自転車事故防止、通学マナーの向上等について、教職員と生徒・PTA、地域や行政とも連携して取り組みを進めていく。
------------------------	---